

## XI 地域社会・国際交流

### 1 地域社会への貢献

看護師等養成所としても看護学生にとっても、地域社会のニーズを捉えて貢献できることに取り組むことは意義深いことである。

地域社会との交流として、「Ⅶ 経営管理 5 広報活動」で述べた看護師養成所進学希望者を対象とした学校見学会の他、看護大会への参加、学校祭での取り組み等を行ってきた。しかし令和2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止せざるを得ない状況となった活動が多かった。

#### (1) 看護大会への参加

看護大会は毎年5月12日頃の「看護の日」に開催されており、専門職を目指す看護学生としての自覚を深めるために、1年生の特別教育活動として看護大会への参加を位置づけてきた。学生は看護功労者の活動を知るとともに講演会に参加し、最近の医療、看護等に関する意識を高めている。新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度は9月、令和3年度は10月に日程を変更して開催されているが、いずれも参加している。

#### (2) 学校祭収益金の寄付

毎年10月に学校祭を実施し、地域及び在校生の家族、卒業生等を招いている。地域への貢献を考え、基本的には学生・職員からの運営費により大きな収益を見込まないよう計画して実施している。さらに収益金の一部は、各年度で寄付先を検討し送付している。しかし新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和2年度は学校祭を中止し、令和3年度はオンライン開催であったため寄付を集めなかった。

学校祭収益金の寄付の状況

年度	金額	寄付先
平成29年度	0円	
平成30年度	50,000円	日本赤十字社
平成31年度	53,000円	日本赤十字社
令和2年度		中止
平成3年度		中止

#### (3) 献血への協力

年1回日本赤十字社の献血車が来校し、できるだけ大勢の学生が協力できるよう研修時間を授業予定表に組み込んで献血を実施している。毎年、学生総数の約3分の1が受付し、そのうち50%近くの学生が献血を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和2年度及び令和3年度は中止している。

### 献血実施状況

年度	受付者数 (人)	受付率 (%)	実施者数 (人)			実施率 (%)
			200ml	400ml	計	
平成 29 年度	114	40.6	14	56	70	61.4
平成 30 年度	126	35.7	21	53	74	58.7
平成 31 年度	136	32.4	3	49	52	38.2
令和 2 年度	中止					
平成 3 年度	中止					

#### (4)名古屋第二赤十字病院「災害救護訓練」への参加

専門分野Ⅲ「災害看護」の授業の一環として、名古屋第二赤十字病院（現、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）の実施する「災害救護訓練」に参加しており、地域社会への貢献を図ると共に、災害救護訓練時における看護師の役割、患者・家族の心身の状況、他職種との連携について学ぶ機会としている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和 2 年度及び令和 3 年度は参加を中止している。

#### (5)エコマネジメント活動（ごみ拾い）の実施

学校全体の取り組みとしてエコマネジメント活動を、毎年 1 回、環境月間である 6 月に全職員と 1 年生により実施している。環境月間は、広く環境の保全について関心と理解を深め、積極的に活動するという趣旨のもとに設けられたものであり、学生は、熱心に、学校周辺を中心にごみ拾いを行い、地域の環境保全への認識を深めている。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和 2 年度及び令和 3 年度は中止している。

#### (6)関係施設や地域からの学生協力依頼への参加

愛知県が実施する「調理師試験」での補助監査委員、名古屋第二赤十字病院が開催する「八事日赤ふれあい祭り&看護フェスティバル」など、学生ボランティアの依頼があった際には、学生に呼びかけ、積極的に協力している。依頼内容は医療に関するものが多く、参加することで学生は視野が広がり、自分の学習につなげることができている。

(人)

年度	調理師試験 補助監督員協力	八事日赤 ふれあい祭り&看護フェスティバル	としわ会 夏祭り	計
平成 29 年度	29	48	—	77
平成 30 年度	—	60	—	60
平成 31 年度	—	—	27	27
令和 2 年度	中止			
平成 3 年度	中止			

## (7)公開講座の実施

看護の知識や技術を広く社会に紹介し、一般市民の健康や看護に対する関心を高めることを目的に、平成19年度から平成30年度まで、年1回、公開講座を実施した。

「あなたに伝えたい『看護の技』」をメインテーマに定員30人を公募し、移動やオムツ交換の技術について講義と演習を実施した。

受講者のアンケート結果は、「現在の職業のスキルアップに役立てたい」「家庭での介護に役立てたい」と半数以上が回答した。また、ほぼ全員が「内容は期待したとおりだった」「説明が丁寧でわかりやすかった」「県立の看護学校を知る機会となった」と回答しており、ニーズにあった講義と演習が実施できたと思われる。しかし、受講者が減少してきたため、広報活動の強化やテーマの検討を行って継続していたが、定員数の確保には至らなくなった。平成30年度は学校祭のイベントとして開催し、学生の受講も含めて受講者が増加したが、地域のニーズに合った活動内容を再検討することとなり公開講座を終了した。

公開講座のサブテーマ及び応募者・受講者数 (人)

年度	サブテーマ	定員	応募者	受講者
平成29年度	座るって素晴らしい～寝て過ごす生活から座る生活へ、座る効果とその方法を知ろう～	30	26	19
平成30年度 ※学校祭での実施	らくらく体位変換～とってもスムーズ～	30		32

## (8)興昭会への参加

会員相互の親睦をはかり、事務事業の円滑な推進をはかるため、昭和区を管轄する官公署及び公共的事業を行う施設の代表者により組織されている。

会議は原則として年4回開催され、学校長が参加し、持ち回りで各施設の事業説明や施設見学等を行ってきた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度は年2回開催、令和3年度は紙面開催となっている。

## 2 国際交流

### (1)科目設定と学習環境の整備

国際看護は、平成20年度改正カリキュラムから、教育内容に含めることが求められている。本校では、「看護学概論」の看護の歴史の中で看護の国際化、そして、「災害看護」の中で国際救援活動を学ぶこととしている。「災害看護」は日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で実際の災害現場で看護にあたった看護師から、リアルな内容を教授してもらい、さらに特別講義として、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院長から「国際救護活動」について講義を受け、災害看護や国際看護についての興味・関心を高めている。

また、本校では学生の居住地や卒業後の就業地域である名古屋市近郊や三河地区にブラジル系の住民が多いという地域的な特徴を考慮して、外国語として英語以外にポルトガル語の授業を実施している。

## (2) 英文証明書の発行

卒業生が海外への留学や就職をする際、申請に基づいて各種英文証明書の発行を行い、スムーズに活動ができるよう支援を行っている。本校卒業生が広く海外において活躍している様子が伺える。

英文証明書の発行状況

発行年度	科	目的	提出先
平成 29 年度	第一看護科	進学	不明
平成 30 年度	第四看護科	就職	ニュージーランド
平成 31 年度	第一看護科	進学	オーストラリア
	第一看護科	ビザ申請	韓国
	第一看護科	進学	イギリス
	第一看護科	免許申請	カナダ
令和 2 年度	第一看護科	免許取得	カナダ
	第一看護科	ビザ申請	韓国
	第一看護科	免許取得	カナダ
令和 3 年度	第一看護科	就職	カナダ
	第一看護科	免許申請	アメリカ
	第一看護科	免許申請	アメリカ
	第一看護科	進学	オーストラリア

## 3 今後の課題

### (1) 地域社会への貢献

本校の入学希望者の年齢層は 10 代から 30 代が中心であり、情報交換のツールとしてインターネットや携帯電話が多く活用されている世代である。そのため、ホームページを公開し、学校からの情報発信を適宜行っている。

また、県内でも歴史のある国公立や私立の大学や高等学校などが集まっている文教地区にあり、マンションや戸建て住宅の立ち並ぶ住宅地に隣接しているため、近隣住民に迷惑をかけることがないように留意して事業に取り組んできた。関連施設や地域からのボランティア等の依頼は学生に周知して参加を促し、学生も積極的に参加して協力している。

### (2) 国際交流

社会がグローバル化する中で、看護職も広く世界に目を向けることが更に求められている。「看護学概論」の中で国際看護について教授しており、また、実習病院である名古屋第二赤十字病院に協力を得て、実際に災害看護に携わった看護師や、国際医療に造詣の深い病院長から講義を受け、具体的な国際看護、災害看護がイメージできるようにしている。今後は、ますますグローバル化が進むことを考えると、海外の人と直接交流を深めるような活動などについても新たな取り組みとして検討していきたい。

## XII 研究

### 1 研究活動の方針

専任教員の資質の向上のために、本校では、教員自らが看護の専門性と教育を探究することを目的に、職務分掌に「看護教育の向上のために研究し、その活動に参加すること」と規定している。さらに、研究活動の推進のために、紀要の発行、愛知県立看護学校教員協議会及び関連学会における研究発表などに取り組んでいる。

### 2 研究活動状況

#### (1) 紀要委員会

紀要に関しては、「紀要委員会」を設置して運営している。平成8年度より学則施行細則第2条第1項第5号に「紀要委員会」を置き、「紀要の発行等に関する重要事項について審議することを目的とする」として設け、「紀要委員会運営規程編集規程」に基づいて原則隔年で発行している。紀要の内容は、投稿研究及び「教員の業績」として、在籍中に教員が学会や誌上で発表した研究一覧である。

#### 紀要委員会運営規程編集規程

##### (趣 旨)

1 この規程は、紀要の発行に関し、必要な事項を定めるものとする。

##### (編 集)

2 紀要は、教員の研究活動を推進することにより看護教育の向上に寄与することを目的として発行する。

3 編集委員会は紀要委員で構成する。

4 原稿の採否および掲載欄の決定は、編集委員会に一任する。

5 紀要の末尾には「教員の業績」の形式で、前回発行から今回の発行までの業績を記載する。

(1) 教職員が本学校に在籍中に行なったものに限る。

(2) 業績の記載要領は、原稿記載要領に準ずる。

(3) 共同研究者も記載し、部外者が併記される場合は所属名を記入する。

##### (投 稿)

6 投稿の締め切り期限は12月末とし、年度末に発行する。但し、発行は原則として隔年とする。

7 投稿は本学校の教職員に限る。但し、共同研究者はこの限りではない。

8 投稿の申し込みは、紀要編集委員に申出るものとする。

9 編集委員会は原稿の字句について加除修正を行い、あるいは投稿者にこれを要求することがある。

10 原稿の記載要領については、別に定める。

紀要委員会の開催は、紀要を発刊する年は年3回程度、発刊しない年は2回程度である。紀要は「愛知県立総合看護専門学校紀要」と題し、原則、隔年発行で平成8年から令和2年までに13巻を発行し、投稿件数は合わせて101題であった。なお、紀要への投稿は、全教員が、個人またはグループで取り組んでいる。

投稿内容は、日々の教育活動の取組状況や成果、専門分野の教育内容・方法、学生の認識・背景、臨地実習、技術教育、プロジェクト学習に関する実態や取組等である。

紀要は、県内の看護専門学校、愛知県立大学及び本校の全ての実習施設等に配付している。

紀要の発行状況

発行年・巻 項目	平成31年 12巻	令和2年 13巻
総頁数(頁)	78	46
投稿件数(件)	7	5

紀要の論文一覧

	論文テーマ
平成31年 第12巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県立総合看護専門学校における「価値」と「魅力」の考察 －在校生へのアンケート調査から－</li> <li>・戴帽式を経験することによる学生の意識の変化とその要因</li> <li>・臥床患者の陰部洗浄・おむつ交換の看護実践能力の育成における課題 －学生の技術習得の実態調査－</li> <li>・看護師国家試験の学習支援における専任教員の意識と関わり</li> <li>・看護学生の自尊感情、レジリエンスに関する研究(第一報)</li> <li>・看護教員を対象としたインストラクショナルデザイン研修受講後のインストラクショナルデザインの活用の実際とその変化</li> <li>・院内教育の自立という視点での中小規模病院の現状と出張研修への思い －愛知県看護研修センター「看護職員のための出張研修・相談」の取り組みをと おして－</li> </ul>
令和2年 第13巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校におけるディベートの課題について</li> <li>・3年生の看護技術演習における課題</li> <li>・本校の看護教員ラダーを考える(第一報) －本校の現状と作成に向けた示唆－</li> <li>・学生確保のための広報活動について －学校見学会の効果－</li> <li>・200床未満の参加病院及び診療所における新卒助産師の採用や助産師教育に 関する実態調査</li> </ul>

## (2) 研究倫理審査委員会

本校では、学則施行細則第2条第1項第11号の規定に基づき、研究倫理審査委員会の円滑な運営を目的に運営規定を設け、平成24年9月1日より施行している。委員は、学内の教職員の他に、外部より有識者に委員を委嘱しており、委員会発足時より今日まで、愛知県立大学名誉教授の木幡洋子先生にお願いしている。

委員会における審査は、教職員が、本校や大学等の紀要、専門雑誌等への投稿、後に述べる愛知県立看護学校教員協議会で取り組む授業研究等で、人を対象とした研究を実施する場合に、研究計画書が提出された時に行われる。

令和2年度及び令和3年度は、紀要や愛知県立看護学校教員協議会で取り組む授業研究等が新型コロナウイルス感染予防対策により、例年どおりの取組みができなかったことが影響し、審査を必要とする研究計画書が提出されなかったため倫理審査委員会は開催していない。

研究倫理審査委員会における審査件数

項目 \ 年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
審査件数	6	1	1	0	0
審査委員会開催数	1	1	1	0	0

## (3) 愛知県立看護学校教員協議会

県立看護学校の教員の自主的な研究活動として、平成6年に当時4校あった県立看護学校の教員で「愛知県立看護学校教員協議会」が結成され、25年以上が経過した。本協議会は、「愛知県立看護学校教員協議会規約」を設け、「会の活動を通して、会員の資質向上を図ることを目的とする。」とし、その活動内容を「(1) 授業研究 (2) その他会員の資質向上に関すること」としている。なお、現在は、県立看護学校の統合により県立愛知看護専門学校と本校の2校の教員で行っている。

### ア 授業研究

活動は、「授業研究グループ活動」と「授業研究発表会」の2つがある。

「授業研究グループ活動」は、概ね月1回・半日程度、県立愛知看護専門学校の教員とグループ協議の機会を持ち、授業研究に取り組んでいる。グループは専門領域別に編成し、7領域と総合分野の8グループであったが、令和3年度は専門領域に限定することなく、領域を超えて連携し発展的に教育内容を捉えていくよう研究したいテーマごとにグループを編成し、6テーマ10グループとなっている。全教員がいずれかのグループに所属している。

「授業研究発表会」は、毎年6月に開催し、グループ活動の成果を発表している。発表会は、「模擬授業」形式とし、研究成果を学生に還元できるようより実践的な発表としている。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、紙面での発表となった。

授業研究の発表状況

平成 29 年度～令和 2 年度

(件)

発表年度	発表数		内 容							
			領 域							
			基礎看護学	在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	総合看護
平成 29 年度	発表	6	—	1	2	1	1	1	—	—
平成 30 年度	発表	3	1	—	—	—	—	—	1	1
	紙面	5	—	1	1	1	1	1	—	—
平成 31 年度	発表	5	—	1	1	1	1	1	—	—
	紙面	3	1	—	—	—	—	—	1	1
令和 2 年度	紙面	8	1	1	1	1	1	1	1	1

令和 3 年度

(件)

テーマ	紙面発表
シミュレーション教育について	1
I C Tを活用した授業について	2
遠隔授業について	2
協同学習について	1
臨床場面に近い効果的な学内実習について	2

イ 会員の資質向上に関すること

本協議会の趣旨をふまえ、カリキュラム改正や教育方法、教員のキャリアに関するもの等、著名な専門家に講師を依頼し、2時間程度の講演の場を設定している。

愛知県立看護学校教員協議会 講演会の実績

年度	テーマ(講師)
平成 29 年度	効果的なコーチングの実際 (中京大学スポーツ科学部 教授 湯浅景元先生)
平成 30 年度	発達障害等のコミュニケーションに障害がある学生への関わり方 (はたらく人・学生のメンタルクリニック院長 西井重超先生)
平成 31 年度	学生と教員がともに成長する授業を目指して (京都橘大学教育開発支援センター 西野毅朗先生)
令和 2 年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
令和 3 年度	看護教育における評価の基本的考え方、ルーブリックの基本 (順天堂大学保健看護学部 教授 北川 明先生)



#### (4) 学術論文・学会発表の状況

平成 29 年度から令和 3 年度までに、学術論文の投稿を 2 題、学会発表を 2 題行った。発表内容は、主に看護研修センター事業である専任教員養成講習会や出張研修など継続教育に関するものであった。

教員の業績（学術論文及び学会発表数） (件)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	計
学術論文	1	1	0	0	0	2
学会発表	1	0	1	0	0	2

#### (5) 研究ネットワークへの参加活動

令和 3 年度までに 8 つの学会に延べ 11 人が入会しているが、学会への入会者は減少しており、教員の自己研鑽の意識が下がっているといえる。研究発表や学会参加をとおして各分野の知見を深め、かつ最新の情報を得ることにより学校の発展へとつなげることがができるため、今後も、積極的な学会発表や学会参加を進めていきたい。

令和 3 年度 学会入会状況 (人)

学 会	会 員	学 会	会 員
日本看護学教育学会	4	日本老年看護学会	1
日本看護科学学会	1	日本がん看護学会	1
日本緩和医療学会	1	愛知県母性衛生学会	1
日本母性衛生学会	1	日本ホリスティック教育/ケア学会	1

### 3 今後の課題

#### (1) 研究への取り組み、倫理面について

本校では、先に述べたように「研究倫理審査委員会運営規程」に基づいて教職員が取り組む研究について審査している。しかし、令和 2 年度と令和 3 年度は、倫理審査申請の件数が 0 件であり、倫理審査委員会は開催されていない。実験研究や介入研究以外の研究の取り組みが多かったためと思われる。今後は、専門雑誌や学会への寄稿等、自己の専門性を活かした研究にも取り組み、より専門性を高め、理論的な思考を培っていくことも必要である。

## (2) 教員の自己研鑽意識について

学術論文や学会発表の状況、研究ネットワークへの参加状況から、教員の自己研鑽の意識の低下が示唆されるが、一方では、個人で研修に参加したり、キャリアアップのため大学院での研究に取組み、専門性を高めている教員もいる。現在、整備されている教員の研究活動の支援体制を最大限活用するとともに、教員個々が研究への取組み、研修への参加等で、資質の向上を図ることが必要であると考ええる。

2年後に県立愛知看護専門学校が閉校になるにあたり愛知県立看護学校教員協議会は、授業研究の方法を変更するなど、過渡期を迎えている。経験の浅い教員や新任の教員も、授業研究の発表に関心を持ち、また授業研究の発表で得た知見を、日頃の授業に活かせるようにしていくことも課題と考える。

### XIII 研修センター

#### 1 設置の概要

##### (1) 目的

看護研修センターは看護職員資質向上策の推進及び看護職員確保策の充実を目的に平成15年度に愛知県立総合看護専門学校内に設置された。

##### (2) 事業概要

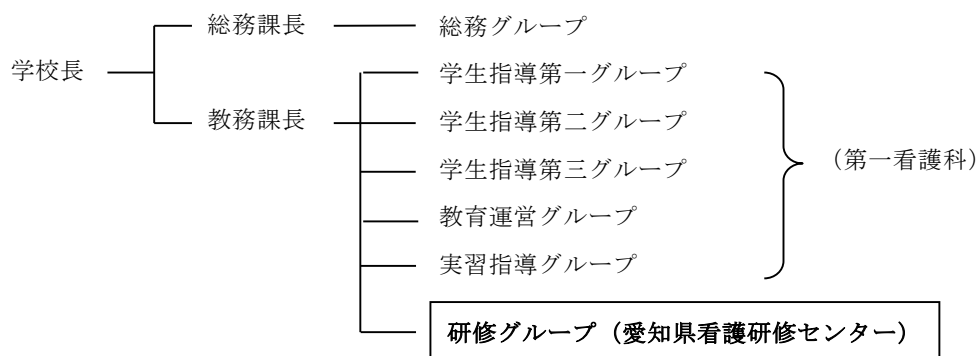
設置当初は、①看護教員・実習指導者の養成と教育実践力の向上のための研修、②看護職員の専門性・実践力の向上のための研修、③未就業者・休業者のための研修、④看護職員の継続教育啓発活動・施設内教育等の支援の4つを柱に事業を展開した。

平成26年度には、新たな財政支援制度を財源とした基金の創設により、各都道府県が作成した計画に基づき事業を実施することとなり、看護研修センター事業を再検討し、上述した①～④の4つの柱から、看護協会等と重複する看護職員の専門性・実践力の向上のための研修については廃止し、①看護教員・実習指導者の養成と教育実践力の向上のための研修、②看護職員の施設内教育等の支援のための研修、③未就業者の再就業の促進のための研修を3つの柱として充実・強化を図り12事業を展開している。また、平成21年度に厚生労働省看護研修研究センターが閉鎖してから教務主任に対する研修の機会が減少していることをうけて、平成30年度に教務主任養成講習会を実施し、令和4年度及び令和5年度に2年間の計画で実施するために準備を行っている。

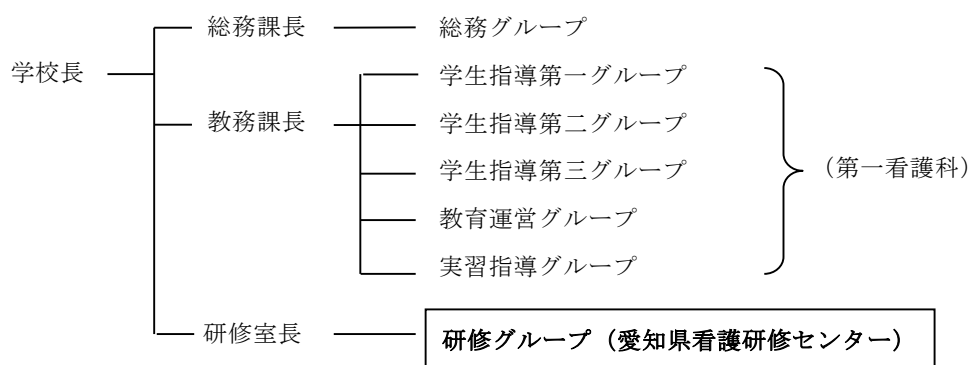
##### (3) 組織機構

総合看護専門学校の組織内において、付帯事業の「看護研修センター事業」を担当する「研修グループ」として教務課に位置づけられた。また、平成18年度より健康福祉部健康担当局医務国保課内に設置されていた「出張研修及び院内教育における出張相談」事業を、平成23年度より「看護職員のための出張研修」として当センターで実施することとした。この事業の移管にあたって研修業務は4人の職員増となり、8人の体制となった。平成28年度からは、業務内容が教務と関わらないものであることから、教務課から分離して研修室として独立させ、研修室長を置いている。

<平成15年度～平成27年度>



<平成 28 年度以降>



## 2 事業実績

### (1) 事業の実施状況

平成 29 年度から、令和 3 年度までの看護研修センター事業の実績は「看護研修センター事業実績」のとおりである。各年度に実施した研修会名、研修会の実施回数ごとの定員、受講者数を示している。

「1 (2) 事業概要」で述べたように、平成 27 年度以降は 3 本の柱において 12 の研修事業を実施しているが、平成 30 年度には教務主任養成講習会を初めて実施するかわりに専任教員養成講習会を休止している。

また、新型コロナウイルス感染症拡大は研修事業にも影響し、令和 2 年度 5 月に開講した専任教員養成講習会は急遽 7 科目で e ラーニングを導入したり、オンライン授業も取入れられたりして開催した。臨地実習指導者講習会や看護教員看護教育学研修会、看護職カムバック研修などを中止せざるを得ない状況もあったが、オンラインの活用や使用する部屋を増やして受講者を分散させ換気を徹底するなどの感染防止対策を行って、クラスターを出すことなく研修事業を継続することができた。

### (2) 広報活動

「愛知県看護研修センター研修案内」のパンフレットを毎年作成し、保健医療福祉施設の病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、看護師等養成所、医療看護関係の公共施設等に約 4,000 部配布している。また、「看護職カムバック研修」と「看護職員のための出張研修」については、それぞれチラシを作成し、ハローワークやナースセンターなどの公共機関や、各研修会受講者等に配布している。

ホームページには、研修プログラム一覧表を掲載し、年間約 3 万件のアクセスがある。

その他の広報活動として、中日新聞主催の就職フェアでは看護についての講義や演習の講師として参加したり、ブースを設置してカムバック研修の説明をしたりするなどの活動をしている。

### 3 今後の課題

近年、看護基礎教育機関は、看護系大学の増加、2年課程の准看護師養成所の閉校など教育体制が変化してきている。当県においても、令和3年4月現在において、県内の大学数が15校（1学年定員1,450人）と大きく増加している。看護師・准看護師養成所においても3年課程が31課程（統合カリキュラム含む、1学年定員1,400人）、2年課程が3課程（2年課程通信制含む、1学年定員317人）、准看護師養成所が2校（1学年定員120人）である。看護基礎教育機関において、大学と看護師等養成所の占める割合は半分ずつ程度という状況ではあるが、看護師養成所の役割は依然大きく、質の高い看護基礎教育を行うためには、教員や臨地実習指導者の育成が重要であり、当センターが担う役割は大きい。しかし、県内における看護師等養成所の専任教員養成講習会受講率は、平成28年度以降は定員に対して80%以下となっている。業務の多忙さ等の理由から応募者は減少しており、参加しやすい講習会のありかたを検討しつつも、これまで以上に教育内容の精選、教育レベルの向上に努めていきたい。

当センターでは、平成30年度に教務主任養成講習会を開催し、また令和4年度及び令和5年度にも開催を準備中であり、将来の看護師養成所を管理・運営する中心人物の人材育成にも貢献していく予定である。また、臨地実習指導者講習会では、学生の看護実践能力の育成に重要な役割を担う実習指導者を養成しており、毎年応募者が多く非常にニーズの高い研修となっている。

その他の研修においても、定員の確保及びよりニーズに応じた研修内容の充実に努めている。看護職カムバック研修は対象者が在家庭の方が多く、広報活動は困難であるが、ナースセンターやハローワークとの連携や丁寧な電話対応等、地道な活動を行って受講者を確保し再就業支援を行っていく。

当センターの事業については、「愛知県看護研修センター推進委員会」を設置し、広く看護関係者からの意見を反映して運営を行っている。今後も医療・看護や看護教育の動向を見据え、受講者のニーズに応えられるよう各関係機関と連携を図りながら役割を果たしていく必要がある。また、看護師養成所の付帯事業として実施しているメリットを活かし、愛知県の看護の質向上を目指して研修事業を推進していきたい。

研修事業の推移（平成 29 年度から令和 3 年度）

区分	事業名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
看護教員・実習指導者のための研修 教育実践力の向上のための養成と	愛知県教務主任養成講習会		1年間1回 定員20名			
	愛知県専任教員養成講習会	1年間1回 定員45名	注1) 中止	再開		
	愛知県臨地実習指導者講習会	2ヶ月間2回 定員60名			注2) 第1回中止	注2) 第2回中止
	愛知県臨地実習指導者講習会 (特定分野)	10日間2回 定員30名				
	新人看護教員研修会	5日間1回 定員20名				
	看護教員看護教育学研修会	5日間1回			注2) 中止	
未就業者の再 就業の促進の ための研修	看護職カレッジ研修	定員15名 1日20回 (内2回岡崎)		1日22回 (内2回豊橋) (内2回一宮)	1日22回 (内2回豊橋) 注2) 11回中止	注2) 4回中止
看護職員の施設内教育等の支援のための研修	継続教育啓発活動 出張相談（院内教育相談）					
	院内教育担当者研修	2日間2回			注2) 第1回中止	注2) 第1回中止
	新人看護職員合同研修	6日間1回			注2) 中止	
	新人助産師合同研修	6日間1回			注2) 中止	
	新人訪問看護職員研修	7日間2回			注2) 中止	
	養成所・病院、看護技術ジョイント 研修	8日間1回			注2) 中止	
	看護職員のための出張研修					

注1：平成30年度は専任教員養成講習会を中止し、教務主任養成講習会を実施  
注2：新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止

看護研修センター事業実績（平成29年度～令和3年度）

(人)

研修会名	実施	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		合計(平成29年度～令和3年度)
		定員	受講者数	定員	受講者数	定員	受講者数	定員	受講者数	定員	受講者数	
愛知県専任教員養成講習会		45	37 (35)			45	35 (34)	45	34	45	23	129 (126)
愛知県教務主任養成講習会				20	17							17 (17)
愛知県臨地実習指導者講習会	第1回	60	64	60	64	60	64	60	64	60	60	570 (570)
	第2回	60	64	60	62	60	64	60	64	60	中止	
愛知県臨地実習指導者講習会 (特定分野)	第1回	30	34 (33)	30	32	30	30	30	17	30	27	283 (280)
	第2回	30	36	30	32	30	31 (30)	30	26 (25)	30	18	
新人看護教員研修会		20	22	20	22	20	26	20	26	20	22	118 (118)
看護教員看護教育学研修会		35	21	35	22	35	17	35	中止	35	26 (23)	86 (83)
院内教育担当者研修	第1回	30	35	30	32	30	27	30	26	30	中止	247
	第2回	30	33	30	27	30	26	30	中止	30	41	
新人看護職員合同研修		30	36 (35)	30	33	30	42	30	中止	30	31	142 (141)
新人助産師合同研修		20	20	20	19	20	24 (23)	20	中止	20	30	93 (92)
新人訪問看護職員研修	第1回	20	19	20	20	20	20 (19)	20	中止	20	23 (22)	168 (159)
	第2回	20	20 (19)	20	23 (21)	20	17	20	中止	20	26 (22)	
養成所・病院、看護技術ジョイント研修		20	30	20	24	30	23	30	23	30	18	118 (118)
5日間集中 コース	第1回	約15	15 (11)	約15	7	約15	15	約15	7	約15	9	115 (105)
	第2回	約15	20 (14)	約15	15	約15	18	約15	9	約15	中止	
	小計	30	35	30	22	30	33	30	16	30	9	
講義選 択コース	第1回A	若干名	5	若干名	12	若干名	9	若干名	12	若干名	12	231
	第2回A	若干名	17	若干名	20	若干名	32	若干名	11	若干名	中止	
	第1回B	若干名	4	若干名	11	若干名	4	若干名	9	若干名	11	
	第2回B	若干名	16	若干名	13	若干名	25	若干名	8	若干名	中止	
	小計		42		56		70		40		23	
看護職 力研 技術選 択コース	5月 技術A	約15	23	約15	23	約15	23	約15	中止	約15	11	1,678
	技術B	約15	23	約15	28	約15	29	約15	中止	約15	13	
	技術C	約15	21	約15	19	約15	11	約15	中止	約15	9	
	小計	45	67	45	70	45	63	45	0	45	33	
	6月 技術A	約15	12	約15	30	約15	10	約15	中止	約15	12	
	技術B	約15	22	約15	20	約15	21	約15	中止	約15	16	
	技術C	約15	12	約15	27	約15	12	約15	中止	約15	12	
	小計	45	46	45	77	45	43	45	0	45	40	
	9月 技術A	約15	26	約15	20	約15	25	約15	13	約15	中止	
	技術B	約15	23	約15	29	約15	29	約15	13	約15	中止	
	技術C	約15	20	約15	34	約15	24	約15	14	約15	中止	
	小計	45	69	45	83	45	78	45	40	45	0	
	11月 技術A	約15	27	約15	20	約15	32	約15	10	約15	20	
	技術B	約15	22	約15	27	約15	38	約15	16	約15	30	
	技術C	約15	20	約15	22	約15	31	約15	8	約15	25	
	小計	45	69	45	69	45	101	45	34	45	75	
	12月 技術A					約15	15	約15	12	約15	5	
	技術B					約15	23	約15	28	約15	7	
	技術C					約15	14	約15	10	約15	9	
	小計					45	52	45	50	45	21	
	1月 技術A	約15	13	約15	14	約15	32	約15	中止	約15	4	
	技術B	約15	19	約15	21	約15	36	約15	中止	約15	11	
	技術C	約15	11	約15	16	約15	25	約15	中止	約15	5	
	小計	45	43	45	51	45	93	45	0	45	20	
	2月 技術A	約15	18	約15	18			約15	9			
	技術B	約15	26	約15	23			約15	8			
	技術C	約15	10	約15	17							
	2月 技術B 豊橋					約15	13	約15	中止	約15	中止	
	技術C					約15	11	約15	中止	約15	11	
	小計	45	54	45	58	75	24	75	17	75	11	
3月 技術B	約15	22	約15	11	約15	中止						
一宮 技術C	約15	12	約15	17	約15	中止						
小計	30	34	30	28	30	0						
3月 技術B	約15	13	約15	6			約15	7	約15	5		
技術C	約15	10	約15	7			約15	8	約15	9		
小計	30	23	30	13			30	15	30	14		
カムバック全体	合計	360	482	360	527	360	557	330	212	330	246	
	就業者数		107		100		106		54		60	427
看護職員のための出張研修	通年	35施設	906	38施設	824	40施設	688	10施設	145	17施設	215	
出張相談	通年	9施設	16	6施設	6	21施設	43	7施設	7	5施設	7	
総合計		820	953	795	956	820	1,003	790	477	790	577	3995 (3965)

注：受講者数の（ ）は、修了者数を示す。  
 受講者数の総合計には、カムバック研修の就業者数及び看護職員のための出張研修、出張相談の受講者は含まない。  
 「看護職員のための出張研修」は、申込施設数、実施施設数及び看護職の受講者数を示す。  
 「出張相談」は、申込施設数、実施回数を示す。